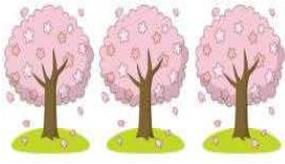


高取小だより

令和7年2月21日



三本桜

第35号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
2月の目標： 勉強の苦手を克服しよう

今、求められる力

昨年、NHKのEテレで、ハーバード、ケンブリッジ、MIT・・・、世界の有名大学のユニークな入試問題を取り上げる番組がありました。その問題からは、「今の時代に求められる様々な力」が見えてきます。

アメリカ・ハーバード大学のライバルといわれる名門・イエール大学の入試問題には、『歴史上のある瞬間に立ち会えるとしたら、それはどんな瞬間ですか、50字で答えなさい』という問題がありました。

私ならば、日本の近代化のきっかけとなった1853年のペリー来航と答え、その後、国内の政治や経済、社会にどのように変化していったのかを見たいなどと答えますが、これでは入試を突破できるはずもないでしょう。

実際にイエール大学に合格した人の解答は、「菩提樹の下での奇跡を証明するために、お釈迦様が精神的な悟りを開いた瞬間の脳をMRIでスキャンしてみたい」だったそうです。哲学と物理に興味があるという点が評価されたようです。また、合格のポイントとしては、発想のユニークさ、価値観、それらを関連付けて言語化していることが織り込まれていることだとか・・・。

他にも、イギリス・ケンブリッジ大学の入試には、「会社の従業員全員が希望通りに休むにはどうすればよいですか」という問題があり、これは瞬時に問題の意図を読み解く「論理的思考能力」が求められるとのことでした。

このような入試問題からは、その国が大切にしている教育の姿や、その国がどんな人材を育てようとしているのか、どんな未来を描こうとしているのかが見えてきます。グローバル化、多様化、技術の台頭、少子化、高齢化がどんどん進む日本で、子どもたちがこの先、幸せに暮らしていくためには、知識は世界の中でも上位に位置する一方、「自律的に計画し学ぶこと」や「社会を変えていくこと・いけること」に対しては消極的であると評価される現状を一步進めなくてはなりません。基本の知識をきちんと押さえながら、個人個人が自分事として考え判断し対応していき、「これからの未来に向けて必要となる力」を主体的に身につけていくことが必要だと改めて感じます。解の1つが「主体的・対話的・深い学び」であり、「個別最適な学び」「協働的な学び」「教育DX」「学びの多様化」はそのための大切な役割を担っているのだと思います。

次のステップに向け、総まとめ・総仕上げ、高め合いの1か月に

あと1か月ほどで卒業式、修了式を迎えます。子どもたちには、これまでのできるようになったことは何か、伸びたことは何か、自分を見つける1か月にしてもらいたいと考えます。どの子にも大きな成長があります。それぞれの成長を、自信につなげて次のステップに向かってくれることを願っています。

自分だけでなく、友達とともに互いのよさや進歩を伝え合う1か月にしてほしいとも願っています。自分のよさや成長は意外と気付きにくいものです。だからこそ、伝え合いながら高め合ってくれることを願ってやみません。

学習発表会

高取小学校では令和3年度から学芸会を学習発表会へ行事の名称を変更しました。それは、行事の目標に「創造力を身につける」ことが加えたからです。子どもたちの「創造力」を高めるために、各学年では、表現の仕方や発表方法を工夫し「自分らしさ」が加わるように取り組んできました。具体的には、学んだことが見ている人に伝わるように、話す内容を考え、読み方を工夫し大きなジェスチャーを加えるなど、一人一人が「自分で考えること」を大切にしてきました。また、学年によっては写真を選び、説明の文章やスライドの内容、順番を考えたり、実物を示して説明したりするなど、参観者に発表内容がより伝わりやすくなるように工夫を加えました。

今後の学習でも、学んだことをさらに詳しく調べたり、多くの方々に伝えたりすることを通して、子どもたちがより創造することを楽しみ、学んだことを「深くておもしろく」していくことができるように関わっていきます。



3年生学習発表会①（2月20日）



3年生学習発表会②（2月20日）



3年生学習発表会③（2月20日）



3年生学習発表会④（2月20日）